

赤十字血液センターだより

さちしお

SACHISHIO

「血液事業をとおして、みなさまの幸せに貢献する」との願いを込め、幸せの「幸(さち)」と「血潮(ちしお)」を組み合わせ、名付けられました



石川県赤十字血液センター
ホームページ

第55回 献血運動推進全国大会



日本赤十字社名誉副総裁である秋篠宮皇嗣妃殿下ご臨席のもと、7月11日(木)に石川県立音楽堂にて「第55回献血運動推進全国大会」が開催されました。当県での開催は昭和46年以来48年ぶり2回目の開催です。

大会に先立ち、皇嗣妃殿下は、石川県赤十字血液センターを訪問され、

当県の血液事業や献血推進の概要、石川県学生献血推進委員会の取り組みなどをご視察されました。

献血セミナーでは、活発に議論する学生献血推進ボランティア一人ひとりに温かいお言葉をかけてくださるなど、これからの活動に向けて大きな励みになりました。

●**献血ルーム ル・キューブ** 金沢市袋町1-1 かなざわはこまち3階 TEL (076)220-1655

【受付時間】10:00~12:30/13:50~18:00

【定休日】月曜日(祝日の場合は開設)

●**献血ルーム くらつき** 金沢市鞆月東1-1 石川県庁前 TEL (076)237-3745

【受付時間】月~金 9:00~11:40/13:00~16:45 【定休日】日曜・祝日

土 8:30~11:40/13:00~16:15

●**献血バス** 県内各地の市役所・町役場・公共施設・ショッピングセンターなど

【受付時間】各市町広報や献血会場ポスター、石川県赤十字血液センター HP等でご確認ください



2019.10
Vol. 139



石川県赤十字血液センター

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



「献血運動推進全国大会」とは

輸血が必要な患者さんにとってなくてはならない献血。安全な血液を安定的に確保し続けるために、これまで多くの皆さんのご尽力によって献血が推進されてきました。

「献血運動推進全国大会」は、日頃より献血を支えてくださる皆さまに感謝の意を表するとともに、広く国民の皆さまに献血へのご理解とご協力をお願いし、献血運動の輪を広げることを目的として、毎年「愛の血液助け合い運動」期間中(7月1日～31日)に開催されるものです。昭和40年から全国47都道府県で順番に開催され、今回で55回目を数えます。

令和初めての大会となった今回は、日本赤十字社名誉副総裁である秋篠宮皇嗣妃殿下のご臨席を賜り、7月11日(木)に石川県立音楽堂(金沢市)にて開催されました。



当日は、主催者である厚生労働省、石川県、日本赤十字社をはじめ、日頃より県内で献血運動の推進にご協力いただいている企業・団体、個人、各都道府県の献血事業関係者など、約1,500名の皆さまが参加しました。

大会では、秋篠宮皇嗣妃殿下より、献血運動推進並びに血液に関する学術研究において顕著なご功績のあった個人及び団体に昭和天皇記念賞が授与されたほか、献血に多大なご協力のあった、または長年献血活動を継続されている全国の企業・団体、個人の皆さまを代表し、県内の2団体に日本赤十字社有功章(金色・銀色)が授与されました。

また、献血運動の推進に特に顕著なご功績のあった全国の企業・団体及び個人の皆さまに厚生労働大臣表彰状・感謝状が贈られ、受賞者を代表して県内の11団体に厚生労働大臣より表彰状及び感謝状が贈呈されたほか、県内で献血事業の推進に積極的にご協力いただいた企業・地域組織・学校など7団体の皆さま、献血者数が年度目標を達成した8市町、献血80回以上の個人92名の皆さまに、石川県知事より知事感謝状が贈呈されました。

授与、贈呈を受けられた皆さま



第55回 献血運動推進全国大会

篇

7月11日(木)に石川県で開催された「第55回献血運動推進全国大会」。48年ぶりに開催された大会をとおして、県民の皆さまによる献血への温かいご協力が全国に発信されました。今回は、大会当日の様子をレポートします。



また、大会開催を記念し、県内で日頃より献血事業にお力添えをいただいている7団体から、献血者送迎車や献血運搬車など車両5台が日本赤十字社へ寄贈されました。これらの車両は、石川県赤十字血液センターで、献血者の送迎や医療機関への献血運搬などに使用されます。



献血事業用車両の寄贈



和田 真由美 さん

大会では、献血にまつわる体験発表も行われました。和田 真由美さんは、骨髄移植を受けたご経験から、長年患者会を運営されています。体験談では、治療中に受けた輸血から温かな気持ちが伝わり、献血してくださった方や医療者をはじめ、たくさんの方々の誰かを思う気持ちがプラスされて患者に届いていることを実感したと話してくださいました。現在、その感謝の気持ちや思いを繋ぐメッセージャーとして「いのちの教育」や「がん教育」を実践されています。「誰かのためを思う行動を起こす力は、社会を知ることから始まります。それぞれの立場から思いを伝え、行動していきましょう」という和田さんの熱い思いに、会場全体が共感し、温かな雰囲気になりました。

八尾 悠生さんは、金沢工業大学 学友会会長として、17年連続学内献血年間千人達成のために学友会で力を合わせて献血を呼びかけていること、学内での献血者や献血ボランティアを増やすことが県内の若年層献血者を増やすことにもつながる、という思いで頑張っていることを話してくださいました。また、自分たちがここまで献血推進活動を続けてこられたのは、先輩方や大学、ライオンズクラブや野々市市をはじめとする地域の皆さんの支えのおかげと感謝も述べられ、「これから学内献血千人達成を目指します。皆さまどうぞ応援してください。」という力強い言葉に、会場から大きな拍手が贈られました。

若い世代による献血推進への取り組み

近年、少子高齢化の進展に伴い、献血可能人口が減少しつつある中で、10～30代の献血率も減少傾向にあります。これからの献血推進には、若い世代に献血の必要性を理解し、積極的に協力してもらうことが必要とされています。

こうした状況にあって、石川県では、県内の大学・短期大学や

高校などに在籍する学生献血推進ボランティアで組織される「石川県学生献血推進委員会」を中心に、若い世代が自ら積極的に献血推進活動を行っています。



石川県学生献血推進委員会の皆さん

同委員会には、現在9校131名の学生ボランティアが所属し、県内各地の献血会場での協力呼びかけや、同世代への献血啓発のための各種イベント企画運営、献血推進のための意見交換や勉強会など、活発に活動しています。今回の大会では、彼らの取り組みにも注目が集まりました。

大会に先立ち、秋篠宮皇嗣妃殿下が石川県赤十字血液センターをご訪問された際に、石川県の血液事業や献血推進の取り組みを血液センター塩原所長からご説明するとともに、石川県学生献血推進委員会による献血セミナー(グループ討議)もご視察されました。

学生ボランティアは、「若い人の献血協力を増やすためには」というテーマで、自分たちが実践できるアイデアを付箋に書き出しながら議論をすすめ、グループごとにアイデアをまとめました。SNSを活用した献血広報や、献血可能年齢に達する前の子どもたちへの献血セミナーなどといった若者の新しい発想に、皇嗣妃殿下は大いに関心を寄せられていました。

また、学生ボランティアが集めた「患者さんからのメッセージ」を使用した献血ポスターの制作作業もご覧になりました。皇嗣妃殿下は、輸血を受けた患者さんやご家族にお心を寄せられるとともに、献血者と患者さんの懸け橋となる学生ボランティアの活動に励ましのお言葉をかけてくださいました。

大会のおことばの中でも石川県学生献血推進委員会の活動に触れられ、「熱心に取り組む姿に接し、心強く思いました。こうした活動が盛り多いため、献血に対する社会全体の理解がさらに深まることを期待しております」と述べられました。

大会の最後には、石川県学生献血委員会 明翫 一輝 委員長が今後の献血推進に向けた「誓いのことば」を述べ、盛会のうちに大会が終了しました。



血液センターを御視察



おことばを述べられる皇嗣妃殿下



明翫 一輝 委員長

大会を終えて

今回、石川県で48年ぶりに開催された献血運動推進全国大会に参加することができ、とても光栄です。

普段、学生赤十字奉仕団として大学での献血を呼びかけているほか、石川県学生献血推進委員会の活動では、他大学の仲間たちと一緒に献血について学んだり、ショッピングセンターや献血ルームで、自分たちで企画した献血キャンペーンを実施したりもしています。輸血が必要な患者さんのために、自分たち学生ができることで少しでも力になれば、という



グループ討議の様子

思いが活動の原動力になっています。今回、こうした私たちの取り組みを、全国の皆さまに知っていただくことができ、今後の活動に向けて大きな励みになりました。

今、私たち若い世代の献血協力が求められています。特に同世代の皆さんに私たちと一緒に献血に参加してもらえよう、また小中学生の子どもたちにも献血の大切さを知ってもらえよう、今後も様々な活動をおしてメッセージを発信していきたいと思えます。

石川県学生献血推進委員会 米澤 秀哉 さん(金沢星稜大学 3年)



生徒に献血の必要性を説明

日頃から小松市内の各献血会場にて献血活動を行っています。

このたび、第55回献血運動推進全国大会に参加し、全国各地で献血推進に多くの方が尽力されていることを改めて実感しました。また、

少子高齢社会の今日にあって、若い世代も熱心に献血を呼びかけていることを知り、ぜひ私たちが彼らを応援できないかと考え、9月に小松市立高校文化祭での献血を企画しました。

まだ献血したことがない生徒さんが大半でしたが、若年層献血者が減少している現状や、輸血が必要な患者さんが待っていることを伝え、協力を願いますと、「ぜひ献血してみたい!」「誰かの役に立ちたい」と、たくさんの方が率先して献血の列に並んでくれました。献血が終わって、「また献血したいです!」と笑顔で教室に戻る彼らをととても頼もしく思いました。

今回ご協力いただいた小松市立高校 校長 室 陽子先生からも、「生徒にとって、社会に積極的に関わり、誰かの役に立てると実感できることは大切なことです。今回の献血はその貴重な機会の一つになりました。」と仰ってくださいました。

私たちにとても、地域の若者とともに献血に関わる事ができ、たいへん嬉しい機会でした。これからも、若い世代へ献血参加を呼びかける活動を続けていきたいと考えています。

小松青雲ライオンズクラブ 会長 朝本 肇 さん



米澤 秀哉 さん



多くの生徒さんが献血に協力

「複数回献血クラブ『ラブラッド』特別試写会」を開催しました



HELLO WORLD
ハロー・ワールド

9月18日(水)、イオンシネマ金沢フォアラスにて、複数回献血クラブ「ラブラッド」特別試写会を開催しました。

毎回好評をいただいているこのイベントは、日頃より献血にご協力いただいている皆さまに感謝を込めて実施しているものです。今回複数回献血クラブ「ラブラッド」の会員を対象に観覧募集したところ、たくさんの方からご応募をいただき、その中から抽選で100組200名の皆さまをご招待しました。

今回上映した作品は、9月20日(水)公開の話題作「HELLO WORLD(ハロー・ワールド)」京都を舞台としたSF青春ラブストーリーです。上映前には、血液センター職員から献血の現状についてお話し、献血へのさらなるご理解と継続的なご協力をお願いしました。

参加した会員からは、「とても面白かったです。また参加したい」「献血のことも改めて知ることができた」「今度また献血ルームで献血します」と嬉しいご感想をいただきました。

今後もラブラッド会員対象の様々なイベントを展開します。皆さまぜひこの機会に「複数回献血クラブ『ラブラッド』」にご登録ください！



複数回献血クラブ「ラブラッド」の詳細及び会員登録は、左のQRコードからアクセスできます

イベント・キャンペーン情報

献血ルーム
くらつき

くらつき3周年キャンペーン

10月31日(木)～11月6日(水) ※日祝除く

期間中、献血ルーム くらつきで献血にご協力いただいた方に**入浴剤**プレゼント!!

11月5日(火)・6日(水)には、日赤石川県支部による癒しの**ハンドケア**もあります!ぜひお越しください☆



複数回献血キャンペーン

11月19日(火)～11月24日(日)

期間中、献血ルーム ル・キューブで献血にご協力いただいた方に**食パン**プレゼント!!

その他にも、**栄養士会による試食会**や**ハンドケア**などイベントが盛りだくさんです!詳細はホームページに掲載しますので、チェックしてくださいね。お待ちしております☆



学生クリスマス献血キャンペーン2019

12月8日(日)9時30分～16時00分 アピタ松任店(白山市幸町280)

学生ボランティアがサンタになって献血を呼びかけ、自分たちで選んだ素敵なクリスマスプレゼントを贈呈します。ぜひたくさんの方々のご協力をお願いします!



ありがとうございました! 永年献血

長きにわたり献血にご協力いただき、今回献血を卒業された皆さまをご紹介します



主人と共に69歳まで献血をすることができ、皆様のお役に立てたことの喜びと健康な身体に感謝でした。もっともっと献血をしたいですが、残念!!

若い方々の献血協力が増えることを希望します。

林 三津子 様 (金沢市)

社会貢献の一環として、献血活動に取り組んできました。目標献血回数200回に届かず70歳を迎えてしまったことが心残りですが、初心は貫けたのではと思っています。

多くの方々が、献血活動に参加し、輸血を必要としている人達に希望を与えられるようになることを心からお祈り申し上げます。野崎 外二 様 (金沢市)



いつも献血にご協力いただきありがとうございます。

今号では「第55回献血運動推進全国大会」を特集しました。私もスタッフとして参加していましたが、日ごろから血液事業に関わる皆さまに大勢お越しいただきました。ありがとうございました。

血液製剤を必要としている患者さんのために、今後も引き続き血液事業へのご理解・ご協力をよろしくお願ひいたします。

(編集委員 M)